

小児脳性麻痺患者に試みた小児鍼

高澤 直美

本症例は脳性麻痺で来院した患者である。小児鍼によるこれまでの経過を報告する。

症 例：2 歳（誕生日 10 月前半） 女児

初 診：平成 17 年 9 月 6 日

主 訴：脳性麻痺

現病歴：29 週 6 日目に破水し、1,144g で仮死状態で生まれた。保育器に 2 ヶ月入っていた。脳性麻痺と診断された。不随意運動はないと言われている。双子の妹は健常。5 歳の兄がいる。

食事は離乳食の初期の状態で、ミキサーでドロドロにして、スプーンで与えている。便秘で 3、4 日に 1 回浣腸している。

片言しゃべったかな、と思うことがある。オウム返しをしているようだ。嬉しいと体に力が入る。リハビリのときに右ひじが伸びにくいと言われる。左手で髪の毛を引っ張る。左手でおもちゃを取ろうとすることがある。側湾があるとされている。

既往歴：特記すべきことなし。

家族歴：特記すべきことなし。

診察所見：立つ、歩く、座る、起き上がるなどの動作不可。また座位を保持すること不可。母親がベッドに寝かす。仰臥位で上腹部に筋緊張。左右下肢伸展位、尖足。左右股関節内転、左やや強。目の焦点が合わない。始終口を開けている。声を発しない。左右肘関節に軽度の拘縮。左側頭部の頭髮まばら。左手でしきりに当該部位の頭髮を引っ張る。無理やり離すと、オムツや、手の届くところに母親の頭があるときは母親の髪の毛を引っ張る。もしくは、何かを掴んで体幹に引き寄せる動作を繰り返す。左手掌に筆者の指をあてると握って離さない。

ガタンといった音で両上肢を持ち上げる。両下肢も同時にやや持ち上がる。母親が両脇を支え、座位をとらせたところ、頸が据わらない。側湾左側凸。伏臥位では時々両肘で上体を起こし反り返る。

診 断：年齢に相応した行動の発達が見られない（表 1）。

適応の判定：本症例は 2 歳児であり、刺鍼は避けたかった。幸いまだ肘関節の拘縮は軽度であり、小児鍼で全身の機能を賦活することによって脳性麻痺の諸症状が改善する可能性は否定できないと考えた。また、本症

例が医療機関でのリハビリ治療を受けているため、併用という形でなら鍼灸治療を行うことに問題はなく、むしろリハビリの効果が高まるかもしれないと考え、鍼灸治療は適応と判定した。

対 応：脳性麻痺の症状改善に鍼が使われていることは確かです。しかしながら、私個人はこれまで脳性麻痺の治療をしたことがありません。西日暮里に脳性麻痺の治療経験が豊富な鍼灸師がいますので、そちらを紹介することもできますが。

（母親）通えるところでないとは続かないのでこちらでお願いします。

治療・経過：頸から下（図 1）を大師流小児鍼治療で用いられる鍼（図 2）と反対側の手の指で、座位、伏臥位、仰臥位の順に交互に軽くなでるように擦過。術中に両肘が伸びて大の字になり笑顔を見せる。

第 2 回（9 月 9 日、3 日目）母親「夜ぐっすり眠って昼寝をしなくなった。」治療同じ。

第 3 回（9 月 13 日、7 日目）「夜よく眠る。」伏臥位にすると上体を起こして反り返る。

第 4 回（9 月 13 日、日目）「おとといから浣腸しなくても指で刺激するだけで便が出るようになった。今朝も出た。」

第 5 回（9 月 20 日、日目）玄関を入ってくる時、頸が据わって上体がしっかり立って抱かれている。「今日リハビリで、今日は右肘がよく伸びますね、と言われた。」何度も笑顔になる（無声）。

第 6 回（9 月 24 日、18 日目）前回と同じく玄関を入ってくる時、頸が据わって上体がしっかり立って抱かれている。「便が 22 日から毎日出始めた。指で刺激している。ベッドでよく動く。離乳食の初期のものを食べているのに太い便が出るようになった。左手でオムツを外そうとする。力強くなってきている感じがする。」

第 7 回（9 月 27 日、21 日目）「今日リハビリで足がよく動くと言われた。通じは毎日ある。夜よく眠る。」

第 19 回（11 月 25 日、80 日目）「ここへ来るとき、近くまで来ると嬉しそうにする。気持ちいいことをするとわかるようだ。歯医者に行くといやがる^{注 1)}。」術後、右肘が楽に開く。

第 20 回（11 月 29 日、84 日目）術中、ニコニコとえくぼを作って唇を横に引いたままチュッ、チュッと唇を鳴らす。唇の脇に唾液の泡ができて^{注 2)}

第 21 回（12 月 2 日、87 日目）「左の股関節が臼蓋形成不全だから胡坐をかかせるようにと言われた。」左内転筋部に筋のツッパリ触知。左内転筋部への擦過時間を 1 分ほど長くした。唇を鳴らす。伏臥位にしてしばらくすると肘で上体を起こして反り返り、ゴロンと右へ回転して仰臥位

となる。

第 22 回 (12 月 6 日、91 日目) 左内転筋部のツッパリ感変わらず。頭部の擦過を追加 (図 1)。唇を鳴らす。

第 23 回 (12 月 9 日、94 日目) 術中「あかあさん」と 3 回発声。「おかあさん」と言っているのではないかと推察。母親も同意。筆者の言葉をオウム返しした可能性がある。唇を鳴らす。

第 24 回 (12 月 13 日、98 日目) 母親から「最近頭にもやっていますが、頭にも効くのですか」と質問を受ける。「少しでもいい変化が起きればということをやっているんですよ。」と返答した。唇を鳴らす。

第 25 回 (12 月 20 日、105 日目) 術中「あんや」と 2 回言う。「あんよ」のオウム返しの可能性がある。唇を鳴らす。母親は「このところコミュニケーションがとれるようになってきた。」という。左内転筋部のツッパリが緩んでいる。座位にしたとき、フーッとため息のような息を吐いた。

1 月 23 日 (こちらから電話): 「1 月 4 日に水疱瘡になった。それが治って先週の火曜日にリハビリに行ったらインフルエンザにかかってしまった。まだすっきりしない。去年の暮れには便座に座って自分できんで排便できたのが、お正月からあまり出なくなった。今はまた浣腸をしている。

ここ 2 ヶ月ほどコミュニケーションがとれるようになってきた。食べたくなくなると絶対に口をあけなくなったし、兄や妹が遊んでいるおもちゃが欲しくなると、自分の遊んでいたおもちゃには見向きもしなくなって目で追ったり左手を伸ばしたりするようになった。また、外から帰ると必ず「ただいま」と言うようになった。医者からは表情が明るくなったといわれた。現在の身長は 82~83cm、体重 10kg くらい。」また、頸の据わりについて確認したところ、「頸は鍼治療を始める前から据わったり据わらなかつたり」だということであった。

考 察: 脳性麻痺の定義として厚生省研究班は「脳性麻痺とは受胎から新生児期(生後 4 週間以内)までの間に生じた脳の非進行性病変に基づく、永続的なしかし変化しうる運動および姿勢の異常である。進行性疾患や一過性の運動障害、または将来正常化するであろうと思われる運動発達遅延は除外する。」(厚生省研究班、1968¹⁾) と述べている。

脳性まひのタイプには大まかにいえば 2 種類あるとされている。すなわち、主として手足が弱くて硬直がみられるもの(痙直型)と、意図しないのに勝手に手足が動くもの(不随意運動)である。後者にはアテトーゼ型とか時にはジスキネジア型脳性まひと呼ばれるものと、運動失調型(運動を協調させることができない)と呼ばれるものがあり、アテトーゼ型の

子どもの場合、じっと座っていようとしても絶え間ない不随意運動が現れ、運動失調型では、じっと座っているときの不随意運動はないが、随意運動がぎこちない。一方、痙直型の子どもは不十分な弱々しい運動しかできず、ともかく動くことが困難な場合が多いということである²⁾。

またその病型には更に細かな分類³⁾があり、また混合型も多く、診断には非常に高度な専門性が要求される。このため鍼灸師が早計に診断を試みても、不正確となる可能性が大きい。診察所見や医師の「不随意運動はない」との言葉から、タイプでいえばアテトーゼ型よりは痙直型に近いのではないかと推測するのみである。本症例は医師より「脳性麻痺」との診断しか受けていない。確定診断には数年を要する場合もあり⁴⁾まだその段階ではないのであろうと推察する。

本症例への小児鍼の作用機序としては、小児鍼によって体表に触刺激を加えたことで、知覚神経の働きが賦活され、全身の活性化を促したのではないかと考える。

本症例の鍼の治療効果の判定はリハビリ担当者の言葉と母親の経過観察をよりどころとしている。運動と姿勢の異常を改善するには運動療法が最も重要である。本症例は医療機関で定期的にリハビリの治療を受けており、そうであればこそ鍼の効果が生かされるものと考え。一連の変化が鍼によるものなのか、リハビリによるものなのか、リハビリとの相互作用によるものなのか、自然の変化なのか、この 1 例だけでは判断しきれない。しかしながら、鍼治療が何らかの作用を及ぼしている可能性を感じる症例であり、今後も経過を追っていきたい。

注 1) 生後 3 ヶ月半から 4 ヶ月の間に見られる行動「過去に経験した授乳、入浴、外出などを用意する雰囲気から気づく」に相応(表 1)

注 2) 生後 3 ヶ月半から 4 ヶ月の間に見られる行動「唇音を発し、口唇部に気泡をつくったりする」に合致(表 1)

参考文献

- 1) 厚生省特別研究「脳性小児麻痺の成因と治療に関する研究」昭和 43 年度第 2 回班会議、1969
- 2) Nancie R. Finnie: 脳性まひの医学的側面「脳性まひ児の家庭療育」、P.9~10、医歯薬出版株式会社、2005
- 3) 亀山富太郎他: 診断「脳性麻痺ハンドブック」、P.60~62、医歯薬出版株式会社、2004
- 4) 亀山富太郎他: 各発達期の療育「脳性麻痺ハンドブック」、P.116、医歯薬出版株式会社、2004

表 1 乳児～幼児期の行動発達基準 (抜粋) 4)

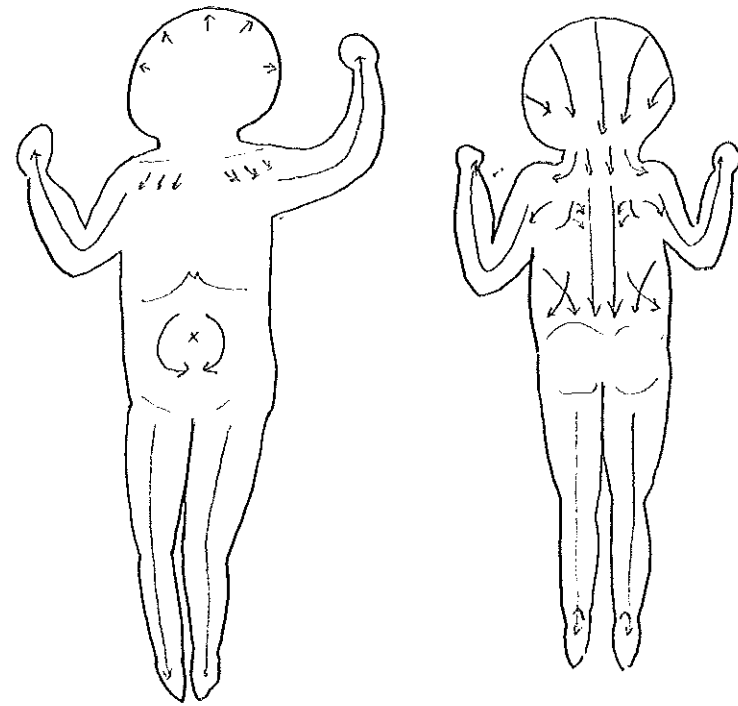


図 1 治療部位および擦過方向

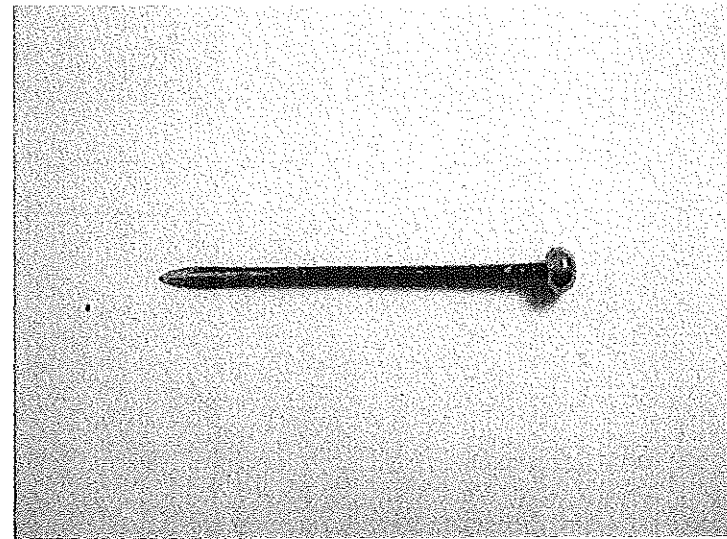


図 2 使用した鍼

a. 新生児

1. head control (righting) が誘発される程度まで発達している
2. すべての原始反射が十分誘発される
3. 光、音およびピン刺激に対する反応の漸減がみられる
4. 姿勢緊張が良好で、自発運動が活発である
5. 啼泣力、哺乳力が良好である
6. 視・聴覚刺激に対する方位反応が誘発される
7. 乳を飲ませる間に母親と目を合わせることができる

b. 2 カ月

1. 焦点を定めて見つめ、耳をすまして聞こうとする。自分の手を見つめる
2. 人の顔や声に反応し社会的ほほえみがある。注意深く母親を見つめる
3. 気分がいいとき、母音とか喉音を発し、母親を相手に語る

c. 3 カ月半～4 カ月

1. 睡眠と覚醒とのリズムが確立
2. 静かな所にいるとき、あたかも話しかけるように語って遊ぶ、あやすど声をあげて笑う
3. 肘位でまわりを見わたり、自発的に人や物をしばらく注視する。声のするほうへ向く
4. 母親がわかり、いつもの場所と見知らぬ場所との相違に気づく
5. 過去に経験した授乳、入浴、外出などを、用意する雰囲気から気づく
6. 人やオモチャを見ると動きが活発となる
7. 唇音を発し、口唇部に気泡をつくったりする

d. 6 カ月

1. 腹臥位でのバランス反応が発達する
2. オモチャで遊んだり、足をつかんで遊ぶ
3. 人または物、場所に注意を集中し、注意深く見つめる。物音の方向に興味深そうに探る
4. 相手をしてやると喜ぶ。接触がとだえたり、かまわずにおくと憤慨して泣き、オモチャや人によりなだめられる
5. 相手に対する明確な愛着行動がみられ、顔の表情や声の抑揚に明らかに反応する
6. 咀嚼運動が始まり、短い母音を含む調和した音節を戯れて繰り返す
7. 複雑な首を出そうとしているようなとき、舌を動かす遊びがみられる

e. 9 カ月

1. 身のまわりの物に気づいたり、人の動作、親の会話などに注目し続ける

- ・オモチャをじっと見つめて、しばらくして手を出す
 - ・母親と話をしている検査者を持続してじっと見つめる。母親を振り返り、また検査者を見つめる
2. まわりの人に注意を向けさせるためにかけ声を出す
 3. 家族と他人に対してははっきり異なった行動 (人見知り) を示す。見知らぬ環境をおそれる傾向がある
 4. 上下、内外、遠近といった空間的關係の理解が行動よりはっきり観察される
 5. こぼしたり、くちやくち握ったりするが、手づかみで食事をするまでに集中力が発達する
 6. 自主性が発達し、いたづらをする (四つ這い移動が始まり、探索活動はますますさかになる)
 7. 目的動作が活発化し、共同作業のかたちで母親の世話にいくらか協力的となる
 8. ちょうだい遊びを楽しむ

f. 12 カ月

1. 人やオモチャに興味を持続し、注意を集中する
2. 周囲の新しい分野に冒険する (遊びのなかでのやりとり、ユーモア、いたづら、工夫など)
3. 簡単な命令に従い、大人との社会的接触において、しだいにパートナーとなる。自分を1個人間として扱ってくれることを知っている
4. 会話的模倣が頻繁になる。ウマウマ、ママ、パパに意味がある。おなじみのやさしい言葉を理解できる
5. 人をひきつけるいろいろな行動を示す
6. 手づかみで食事ができる
7. ダメを理解し、自分がしようとすることをやめさせられるとおこる
8. ハンカチに包まれたオモチャを取り出したり、カップに積み木を入れたりする

g. 18 カ月

1. 立位バランス遊びを好んでする
2. 音を産出する活動よりも観察したり、耳を傾けることが多くなる
3. いくつかの理解できる言葉を交えたわけのわからない言葉でおしゃべりする
4. オモチャを引っ張って歩く、人形を抱いて遊ぶ、家事をまねる
5. 「ごはん」と言うと、食卓について待っている
6. 上手ではないがスプーンを使用する。自立心が発達し食べさせようとしても手を払いのけて自分で食べようとする

h. 2 歳

1. 探究の年代に入る
2. 目の前にない対象を象徴的に表現する (初歩的な思考の発達)。たとえば、腕を露出させて写った写真をみて注射と言う。簡単なごっこ遊びをする。母親になつたつもりで人形に食べ物を与え、ベッドに寝かせつける
3. ほしい物があっても、言いがきせればがまんして待つ
4. 言葉数が増し、2 語文を言う。「コレナアニ」と物の名前を頻繁に質問する
5. 食事でごぼすことは少なくなる
6. 大小便を教える
7. 靴を履く、衣服を脱ぐことができる
8. 簡単な家事を手伝う
9. 椅子を使って棚から物を取る

i. 2 歳半

1. 状況判断の能力が増し、状況のいろいろな局面を感知できる
2. しつように目標を成就しようとし、注意の集中時間がかなり長い
3. なぐり書きに没頭する
4. 言葉で伝達しようとしていることをわかってもらえないと失望する
5. 自主性が発達して、第一反抗期が始まる。「自分です」と言いはって親の援助を拒否する。たとえば衣服の着脱を一人でしたがる
6. テストを拒絶したりするが、協力的でもある
7. 乗り物ごっこ、ままごとごっこをする
8. 物の名前を聞いてその絵を指摘する
9. 食事がすむと「ごちそうさま」と言う

j. 3 歳

1. ブランコに立ち乗りができる
2. 日常語の大部分をうまく使う。幼児側から話し始め、「対話」が形成される
3. 母から容易に離れられる。友人を求め、ともに遊ぶことを楽しむ。「けんか」をする
4. 相撲で、子ども同士二人で取り組む
5. ままごとで父、母、赤ちゃん、客などの役をとり、そのつもりになって行動する (創作力が芽生える)
6. 自分でかかってな歌を考えて、歌う
7. 管を使用し、はさみを使って紙を切る
8. 青木の実や、どんぐりを集めて、喜ぶ
9. 自分の姓名を言う